

お茶の水女子大学

【N030 お茶の水女子大学】

	お茶の水女子大学 理学分野
学部等の教育研究 組織の名称	理学部（第1年次:125 第3年次:10） 大学院人間文化創成科学研究科（M:222 D:73）
沿革	<p>明治8（1875）年 東京女子師範学校創立</p> <p>昭和24（1949）年 新制お茶の水女子大学理家政学部新設</p> <p>昭和25（1950）年 理学部設置</p> <p>昭和39（1964）年 大学院理学研究科修士課程設置</p> <p>昭和51（1976）年 大学院人間文化研究科博士課程設置</p> <p>平成2（1990）年 理学部に情報科学科を設置</p> <p>平成9（1997）年 大学院人間文化研究科博士前期課程設置（改組）</p> <p>平成19（2007）年 大学院人間文化創成科学研究科（前期二年後期三年の博士課程）設置（改組）</p>
設置目的等	<p>お茶の水女子大学理学部・人間文化創成科学研究科の母体である東京女子師範学校は、女子の教育を普及させるための女性教員の養成を目的として明治8年に設置された。その後、東京師範学校女子部、高等師範学校女子部、女子高等師範学校、東京女子高等師範学校を経て、東京女子高等師範学校は新制国立大学の発足時には、お茶の水女子大学（文学部・理家政学部）として承継された。</p> <p>昭和39年に、自然科学の分野で女性研究者を養成することを目的に理学研究科（修士課程）が設置された。</p> <p>昭和51年に、女性研究者が専門諸分野の基盤に立つ高度の学際的総合研究を行なうに必要な創造的能力を育成し、専門分野について研究者として自立し得る能力と学識とを養成することすることを目的に人間文化研究科設置（博士課程）が設置された。</p> <p>平成9年には、修士課程を人間文化研究科（博士前期課程）に改組した。</p> <p>最近では平成19年に、高度の専門学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、文化の進展に寄与することを目的に人間文化創成科学研究科（前期二年後期三年の博士課程）に改組した。</p>
強みや特色、 社会的な役割	<p>お茶の水女子大学は明治8年の創立以来、社会の諸分野において有為にして教養高き女子を育成し、文化の進展に寄与してきた。そして、我が国における女子高等教育機関のトップ・ブランドとして、全国から優秀な学生を集め、学界、教育界をはじめ官界や民間企業等に優れ</p>

た女性リーダーを輩出してきた。特に大学院博士後期課程設置後は、専攻を設置した領域における女性博士学位(国立大学)の約15%が、本学で取得されたものである。ことに理系分野においては日本における理系女子の源流となっている。本学が掲げるミッション「グローバル女性リーダー育成」の実現を目指す理系分野は、以下の強みや特色、社会的な役割を有している。

- 博士前期課程では高度な専門的知識と能力を有し、境界領域分野や未知の分野の学問を切り拓くことに意欲的な高度専門人材の育成の役割を果たす。博士後期課程では専門性を基盤として新しい科学の創成を目指しつつ幅広い知識と視野をもち、次世代を担う高度な研究能力を有する先導的な人材育成の役割を充実させる。さらに、平成25年度に採択された「「みがかずば」の精神に基づきイノベーションを創出し続ける理工系グローバルリーダーの育成」の教育プログラムに沿って、俯瞰的視野を基に自然科学の諸領域を横断し、イノベーションを創出し続けてグローバルに活躍する女性人材を育成する。
- 主専攻に加え、学際的な副専攻プログラム（グローバル理工学、SHOKUIKU等）やコース（遺伝カウンセリング、疾患予防科学）を設置し、基盤力の醸成と養成する人物像にふさわしい資質の開発を行う。この方向性にふさわしい学部・大学院教育を目指して不断の改善・充実を図るとともに学生・研究者の海外派遣を積極的に推進する。
- 新領域の開拓を含む理論物理学や有機合成化学における優れた研究の実績を生かすとともに、成長著しいシミュレーション科学分野や生命科学・生活科学の質の向上に資する科学技術分野に目を向けつつ、理学諸分野の研究を推進する。上記の分野において小規模大学ながら、質において世界のトップを目指す研究を推進する。
- 本学がハブになって産学官の連携を積極的に進め、グローバルに活躍する女性人材を育成して社会のニーズに応える。応用科学分野においては、企業との間で受託研究や共同研究を多数遂行し社会に貢献する。小中高等学校理科教員の再教育を行うとともに、周辺自治体において出前授業等の理数教育支援活動を今後とも行っていく。また本学で実績がある開発途上国支援を引き続き続ける。
- 長期履修制度や社会人入試制度を整備し、育児支援奨学金制度

や、授乳、保育、宿泊施設等、女性のライフスタイルに即した支援体制を充実させているが、今後も諸事情により勉学し研究する環境から離れた女性の学び直しに資するように更なる努力を重ねる。

- 科学への誘いセミナー等を開催し次世代の理数系女子の育成のため啓発を行う。これまで東北被災地における理数教育支援として教材・教具の開発及び教員の研修に寄与してきたが、今後も支援活動を続ける。